

令和3年7月5日

関係各位のみなさまへ

日本防災士会・新潟県支部事務局長 成川一正

平素は、日本防災士会・新潟県支部の活動にご理解とご協力を賜り誠にありがとうございます。7月4日に当会が主催した「にいがた おやこ防災減災塾 in 坂井輪」が、NHK新潟放送局、NST、新潟日報に取材を受けましたのでご報告いたします。

**NHK NEWS WEB**

2021年（令和

**新潟 NEWS WEB**

## 地震や大雨など親子で防災を考えるイベント 新潟市

07月04日 15時20分



地震や大雨などの災害に対する日頃の備えについて親子で考えてもらおうというイベントが新潟市で開かれました。

このイベントは日本防災士会が初めて開き、新潟市西区にある公民館には親子連れなど23人が訪れました。

このうち、防災クイズのコーナーでは地震が起きた時の対応に関する〇×問題が出され、参加者は建物の近くに逃げるとブロック塀などが崩れるおそれがあるため、建物から離れて逃げることや水や食料などを入れた防災リュックサックは押し入れなどに閉まっておかず、リビングや寝室などすぐに持ち出せる場所に置いておくことなどを学んでいました。

また、別のコーナーでは昭和39年に新潟市などで最大震度5の揺れを観測し、26人が亡くなった新潟地震について紹介され、NHKが取材した当時の映像を流しながら防災士が説明していました。

新潟市から子どもと訪れた40代の男性は「親子でより実感を持って防災に向き合うことができよかったです。災害はいつ起きてもおかしくないの、日頃から心がけていきたい」と話していました。

主催した日本防災士会新潟県支部の成川一正事務局長は「災害は怖いイメージがあるが、子どもたちを楽しみながら学んでもらえてよかった。防災グッズを用意するなど事前の備えに努めてほしい」と話していました。

<https://www3.nhk.or.jp/lnews/niigata/20210704/1030017399.html>

上記より動画が期間限定で閲覧できます。



NST新潟総合テレビ

静岡県では土石流が発生するなど全国で雨による災害が懸念される中、新潟市で4日、親子で防災について考えるイベントが開かれました。

新潟市西区で4日、親子を対象にした防災減災塾が開かれました。

会場では参加者たちが実際に避難所の設営などを体験したほか、地震が来た時にどう行動するかクイズなどで学んでいました。

一方、静岡県熱海市では3日、大規模な土石流が発生。県内も出水期に入り水害の発生が懸念されますが、注意点について防災士は…

【日本防災士会 古俣和博 防災士】

「自分のところでどんな災害が想定されるのか、ハザードマップを予め見ておくということが大事だと思います」

防災減災塾は今後、水害をテーマに講座を開く予定です。

7月5日 新潟日報 朝刊 (23面)

年(令和3年)7月5日(月曜日) (日刊) 新潟

# 地震「そのとき」学ぶ 新潟西区 親子で防災減災塾

親子で体験を交えて防災を学ぶ「にいがたおやこ防災減災塾」が4日、新潟市西区の坂井輪地区公民館で開かれた。参加者は避難

所の設営や映像などを通じ、非常時への意識を高めた。日本防災士会県支部が、1964年に発生した新潟



避難所で使う段ボール製ベッドの作り方を学ぶ親子連れら＝4日、新潟市西区

地震の記憶を継承しようと初めて開いた。参加した親子は避難所の感染拡大防止に役立つパーティションの設置や、災害用段ボール製ベッド作りなどに取り組んだ。新潟地震の映像コーナーもあり、崩れ落ちた昭和大桥や横倒しになった県営アパートなどの被害を見て、災害の怖さを再認識していた。父親と参加した坂井輪中1年の志賀秀美さん(12)は「地震の映像を見て、もし自分がそのときにいたら怖いと思った」と話した。講師を務めた同支部の成川一正事務局長(55)は「家族で避難の方法など、災害時の共通ルールを決めておいてほしい」と語った。